

平成 27 年度町政懇談会記録（要旨）

開催日：平成 27 年 10 月 25 日（日）

開会：午後 3 時 30 分 閉会：午後 5 時 05 分

場所：笹尾東一丁目集会所

参加者：男 13 人、女 2 人 計 15 人

町職員：町長、副町長、総務部長、財政課、町民課、政策課

《 懇 談 》

男性 　　少しお伺いしたいのですが、宅地で畑を作っている方がみえるのですが、80 坪あるところで全部畑を作っていて、北西の風が吹いているときに肥えをまいていて、以前にも臭いのする牛糞をまかれて、周りの人が困って見えたくせ、私の家からは 3、4 軒くらい離れています。隣の人は何も言わないのに離れた人がいうのもいかなかなど黙っていましたが、今年は班長をしているので、「ここは住宅地なので、皆さん困って見えるので、そういうのは控えてもらえないか」と申し上げたわけですが、宅地のところで畑を作っても町としては何も言えないのですか。

町長 　　なかなか難しい問題だと思います。それを規制する法律がないんですね。住宅地でも、例えば住宅の横で家庭菜園は良くて、これも家庭菜園と言われると、我々が規制するということが難しい案件だと思います。

　　今ふれあい農園というのを町でやっています。特に団地にお住まいの方は農地を持ってないので、家庭菜園をやっていただくために用意させていただきました。今満杯です。我々としては畑をやられるなら農地でやっていただく、この宅地の中ではなくて、農地でやっていただくとうまくいくのかなと思います。そのための農地の確保のお手伝いや相談にはのらせていただきたいと思います。なかなか行政としては駄目という話はできない、もし争いになって裁判になったら必ず我々が負けますから、言いづらいところがあるんです。確かに周りの皆さんには大変な問題だと思いますし、我々も考えさせていただきます。

男性 　　今我々の班では、子どもが 2 歳と 4 歳の 2 人だけなんです。今の話のようにブルーベリーをやろうが、株式会社をやろうが継続がないんです。どんなに町ががんばったところで、2 人しかいないですから継続がないんです。色々お話がありましたが、やはり若い人をここへ転入できるような軽減策だとか子育て支援とか特別な何か、町ができる範囲で若い人が入りやすい環境を作ってもらいたい。ソフトの面で若い人にきてもらえるような魅力のある何か、鳥取県や島根県の話がありましたが、たぶん何か特例があつての話なんですよ。

町長

鳥取県、島根県の話は実際に自分の意思で入ってみえるということは申し上げておきますけど、今の東員町は一つの特徴として子育てには力も入れております。ソフトの面と言われましたが、ソフトの面でたぶん三重県で一番と私は自負しております。その結果東員町の全体として、ここ何年かは40歳未満の人が600人ほど移住してきてもらっています。去年は634人、平成25年は643人、その前は575人、その前も580人くらい、実は子どもの数が東員町は若干増えているんです。この傾向を継続させていきたいと思っています。ある研究の結果ですが、40歳以下の若い人がその地域の人口の1%入ってこれば、その地域は維持できるし続いていくという理論があり、それで行くと東員町は全体の2%は入っていただいているので続いていきます。今、東員町は入ってくる人と出ていく人に傾向がありまして、出ていく人は単身で入ってくる人は家族で入っていただいています。家を買って家族で引っ越しして見える方が多いです。

これから私たちがやっていかなければいけないことは、この団地の再生だと思っています。人が循環する政策をやらなければいけない。例えば今やろうとしていることは、西1丁目に保育園の跡地がありますよね。あそこを若い人向けに、若い人が入ってくれるような条件をつけて売って、開発してもらおうと思っています。こういう少しの土地を、東1丁目もバスの回転所の前にもありますよね。こういう土地を地主さんとも交渉して若い人が入ってもらえるようなことをやっていかなければいけないと思っています。若い人に入ってきていただいてもいいように、子どもを育てていける環境づくりをしているつもりです。若い人に入ってもらえるようなことをやっていかなければならないと思っています。

男性

ソフト面に力を入れていると言われていましたが、具体的にはどういうことをやってみえるのですか。

町長

例えば三重県で東員町しかやっていないことをいえば、5歳児の保育料を無料にしています。全国的にも非常に少ないです。本当は3・4・5歳としたのですが、財源的な問題もありまして、5歳であれば、次は小学校へ上がるので、ランドセルを買ったり教材を買ったり色々なことでお金がかかるだろうと、その負担を少し和らげようということで、5歳児に限定しております。それと、小学校6つありますが、全小学校区に今国が進めている認定保育園のような、保育園と幼稚園が一緒になった施設が10年ほど前からできています。また学童保育もすべての学校区にありますので、子どもが育つ施設は整っています。早くから中学校卒業までの医療費は無料にしていますので、色々な面で東員町は子育てしやすい町ですし、周りから東員町は子育てしやすい町だという評価もいただいております。そういう評価が口コミで広がっているようで、在来地区でミニ開発がありますとすぐ売れています。

こういうことを続けなければと思っていますし、今考えなければならないのは、この団地が高齢化しますので、若い人が入れるようなことです。今空き家の調査をして

おりますが、全国的に空き家は 13%ほどありますが、東員町は半分くらいです。6%ほどしかないのです。しかしそれだけありますから、壊れているのも空き家ですが、きちんと使えるのも空き家です。きちんと使えて持っている人が売ってもいいよ、貸してもいいよという意味確認まで含めて、今調査していますので、空き家を回していただけるようなことを考えていかなければと思っております。そんな対策もしていきながら、東員町へ若い人を呼び込むということを微力ながらさせていただいております。

男性

団地のセールスポイントとしては海拔が高いということがあります。ここへ引っ越して 10 年になるんですが、外へのセールスポイントとして海拔が 100 メートル平均あるということを訴えかけていくことが、流入のセールスポイントになると思います。

町長

ありがとうございます。東北で震災がありましたよね。そして海岸部は危ないという話になり、それまで川越町は転入が多かったのですが止まってしまったんです。そして内陸部にシフトをしています。おっしゃられるように、東員町はまさかここまで津波はこないであろうということが一つと、高い山がないんです。ですから山崩れもない、比較的 안전한地域かと思っておりますので、今おっしゃられたセールスポイントは使えるかと思えます。そのような面からも東員町を売り出すようなこともしていきたいと思っております。

男性

今日テレビでスタイルプラスという番組がやっていたんですけど、東海三県で最後に紹介されたのが東員町ということで、セールスポイントがないのかなということですが、夏にたまたまアンケートがあたりました。そのアンケートに、「町にはこういうビジョンを持っていて、こうしたいから町民にはこういうふうに協力してほしいと示してほしい」と書かせていただいたのですが、そういう情報を、先ほど子どもの話もありましたが、口コミですよ、情報発信がちゃんとできているのかなという気がします。

町長

東員町は PR 下手と言われていています。真剣に東員町の PR をしていかなければいけないと思っております。私は、東員町は良いものがいっぱいあると思っております。子育ては三重県で一番進んでいると思っておりますし、これは売りにしていかなければいけない。そして町民の皆さんの文化度はものすごく高いと思っております。今文化祭をやっていますが、すごく良い作品が出ています。個人個人の作られる作品もすごいのですが、例えばこども歌舞伎ありますよね、松本幸四郎の関係ですが、こども歌舞伎をやっているのは三重県では東員町しかないんです。もう 20 年になりました。これを続けることによって、これは東員町の一つの特徴にもなるということもあります。ようやく少しずつ認知をされるようになってきました。これは 20 年経って積み重ねだと思えます。また年末に第九があります。これは、なかにし礼さんが作った日本語で歌う第九ですが、他には鎌倉市や小浜市でやっているのですが、東員町が一番古いんで

す。27年になります。

こういうこともようやく他にも知られてきました。こういった文化度が非常に高いということは、積み重ねだと思えます。町民の皆さんを巻き込んだ、町民の皆さんが作る素晴らしい良いものがいっぱいあると思っています。これは東員町の自慢できるものだと思っています。

けれども、特産品がなかなかない、だから特産を作るためにどうしたらいいのということで、農産物では、米じゃない何か特徴のあるものを作ろうと、やり始めたということです。これも積み重ねだと思っています。お隣のいなべ市がもともとそばの産地ではないですけれども、今や三重県で1位2位を争うそばの産地になりました。これも少しずつ積み重ねていって、10年、15年くらいかけてそばの産地になったのです。我々も例えばぶどうなり、ブルーベリーでも他のものでも構いません。そういうものを積み重ね広げていくことによって、これが東員町のものだという風になっていくんだと思います。そういうきっかけを作っていきたいと思っています。ひとつひとつ地道にやらざるを得ないと思っていますので、皆さんにもご協力いただかないといけない話になってきます。よろしくお願いします。

男性 今のPRの関係で、員弁郡というのを改名したらどうですか。マスコミに取り上げられるようなユニークな名前を考えて、変えられたらどうですか。員弁郡というのは影が薄いよね。地味だよ。

町長 ところが、員弁郡というのは東員町しかないんです。

男性 それが受け入れられてないから知名度がないんですよ。やはり今の知名度を上げようと思ったら、南アルプス市とかね。

町長 員弁郡を変えるのはできないんです。東員町を変えるのはできますよ。自分のところですから、町民の皆さんが変えようとなって、議会にとおして名前を変えることはできます。

女性 先ほどの員弁郡ですが、いろんなところで三重県の方に会う機会があるのですが、昨日も会議があったのですが、員弁郡ってひとつしか残らなかったんだよねと言われてたりして、かえって知名度が上がっていると思います

町長 員弁と書いていなべというこの地名は、1300年前からあったんです。1300年続いているんです。

男性 それをなんでアピールしないんですか。

町長 一昨年 1300 年祭をさせていただいたんですが。すいません、宣伝が行き届いてなくて。

男性 興味がない人がいっぱいいるということだよ。

女性 結構亀山の人とかはご存じですよ。

男性 でも全国区じゃないんだよね。

女性 まずは三重県の中で認知されないと。全国区で認知される町となると、それこそ何か悪いことをしたとか、だれかが何かしたとかがないと無理ですよ、ねぇ町長さん。

町長 もう少し知名度を上げるように、アピールできるよう頑張ります。